

植物ゲノム・遺伝子源解析センター 月例セミナー

とき 平成30年6月1日(金)

16時～17時

ところ 農学部 A302演習室

題目

「シクラメンの花色・花色素発現機構」

講師

農学部教授 高村武二郎 博士

概略

花色は多くの花きにとって最重要形質である。花色発現には植物生体内または生育環境等の生体外の諸要因も影響するが、花卉細胞に含まれる色素の発現が第一義的な要因となる。花色に関与する色素としては、フラボノイド系色素、カロテノイド系色素、クロロフィル系色素およびベタレイン系色素が挙げられるが、このうちフラボノイド系色素が最も多くの花に含まれており、最も広範囲の花色の発現に関与している。

冬の代表的な鉢花であるシクラメン(*Cyclamen persicum* Mill.)は、緑色花以外のすべての品種において、フラボノイド系色素により花色が発現している。演者らは、シクラメンの花色発現のメカニズムおよびその遺伝様式について研究を行っており、これまでに黄色花や青色花、複色花などの発現機構を明らかにしてきた。今回は、シクラメン園芸品種における花色および花色素の発現、ならびに花色素生成関連遺伝子の発現について解説する。

主催：香川大学農学部 植物ゲノム・遺伝子源解析センター

(<http://www.ag.kagawa-u.ac.jp/phytogene/index.html>)